

動労千葉、全組合員の10月総決起をもって 乗務員運用合理化11月1日強行実施を粉碎す！

日刊動労千葉

80.11.3

No. 572

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八〇九（公衆）四三二二七二〇七

「千葉はなぜ11日実施しないのか！」と当局にどなり
こむ動労本部革マル反動分子を断じて許すな！

動労「本部」反動分子による「千葉を十一月一日迄に実施させる」ことを条件にした言語道断な「裏切り妥結」をテコに、国鉄当局は反動秋山局長の「政治生命をかけて十一月一日実施するなどと叫び、なりふりかまわぬ乗務員運用合理化攻撃をかけてきたが、動労千葉はこれと真向うから対決し、職場からの総決起をもって阻止した。動労東京が乗務員運用合理化に屈するばかりか率先して協力するという、文字通り当局と連合して攻撃をしかけてくるという、敵しい情勢下において十一月一日強行実施阻止を闘いとったことは、八一年三月ジェット燃料輸送延長策動に重大なクサビをうちこんだ組織的勝利である。

全組合員はさらに闘争体制を持續し高揚させ、権力・当局・「本部」反動分子の共通した攻撃意図である動労千葉組織破壊攻撃を断固粉碎しよう。

十一・一強行実施阻止は、
なによりによってかちとられたのか

「五五・一〇ダイ改」後、数日もたたずして乗務員運用合理化十一月一日強行実施方針を打ち出した、国鉄当局の従来にならぬ異常なまでの姿勢を正しく見すえ、これを真向うから受けて立つという闘いの方針と、それにもとづく全組合員の十月総決起総行動の貫徹こそが最大の勝利の要因である。

それはなによりも、国鉄三十五万人体制攻撃の一大突破口としてある乗務員運用合理化を東京を突破口に全国におしひろげようとする策動であり、さらに、八一年三月ジェット燃料輸送延長阻止闘争を未然に圧殺し組織を破壊せんとする政治的攻撃であると受けとめ、乗務員運用合理化との闘いを「八一・三」の闘いとしてとらえ、決起したがゆえである。

実際この闘いは、動労「本部」反動分子が乗務員運用合理化の尖兵・水先案内人とし「九月裏切り妥結」をもって国鉄労働者の利益を売り渡す

という犯罪行為に対する直接的怒りをバネにし、動労千葉のかつてないエネルギーを発揮した。

一〇・一〇東実集会、一九代々木、二二日比谷・本町公園、二六銚子、二七局前、三一狭山、そしてその合間を縫っての各支部職場集会、東中野駅事故をめぐる国労共闘による闘い等々、息つくひまのない連続闘争の高揚をもって十一月一日強行実施を阻止したのである。

全組合員のみなさん！

十一月一日実施が阻止されるや国鉄当局は歯がみをし、再び攻撃を激化してくることは必至である。

緒戦の勝利の成果を確認し、さらに闘争体制を持續し闘い抜こう。動労千葉の闘いの前進に恐怖した「本部」反動分子は、こともあろうに国鉄当局に対し「十一月一日実施を千葉はなぜしない」と抗議する等という断じて許せない行為を行っている。

かかる「本部」反動分子を徹底弾劾し、乗務員運用合理化阻止へ更に前進しよう。

「本部」派銚子支部デッチ上げ
策動を粉碎す！ 11月27日銚子
支部臨時大会

乗務員運用合理化十一月一日実施攻撃と軌を一にして「本部」反動分子は、動労千葉を裏切った一部分子を使って銚子支部において十月二十七日に「臨時大会」を開催し、「本部」派支部結成の策動を開始した。

「銚子の多数は『本部』派」「動労千葉は運用合理化で揺さぶられている」と等と手前勝手な思惑をもって「本部」反動分子は今がチャンスとばかり当局の尖兵となつて銚子支部破壊に乗り出してきたのである。

これに対し、動労千葉は二十三日からの二十六日迄のオルグ、激励行動を展開し「本部」反動分子の狙いを明らかにしてきた。この成果として二十七日の「銚子支部臨時大会」では、「動労千葉に結集すべきだ」との発言が多数を占め、「本部」反動分子の策動を完全に粉碎し勝利した。われわれはこの勝利に踏まえ確信をより高め銚子支部結成へむけ奮闘しよう。